

リース業における地球温暖化対策の取組

低炭素社会実行計画(カーボンニュートラル行動計画)2020年度実績報告

1. リース業の概要
2. リース業の「低炭素社会実行計画」の概要
3. 2020年度の取組実績
4. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献(例)

2021年10月
公益社団法人リース事業協会

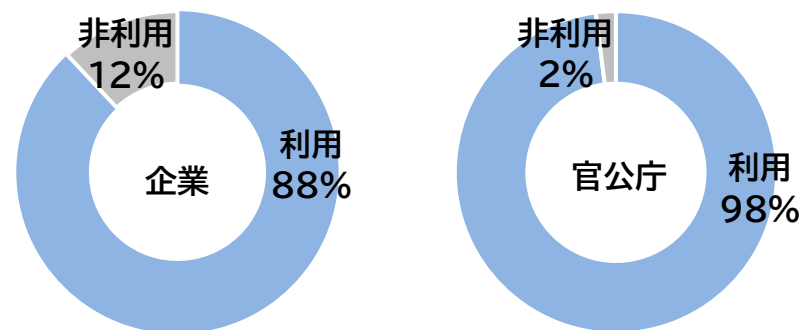
1. リース業の概況

- ◆ リースは、企業・官公庁が選定した設備を長期間にわたってリースする取引です。
- ◆ 国内外の企業・官公庁において、多種多様な設備がリースによって導入され、多くの企業・官公庁でリースが利用されています。
- ◆ 2020年度の国内外のリース設備投資額は6.8兆円、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、前年度比14.2%減となりました。

リースの活用分野(例)

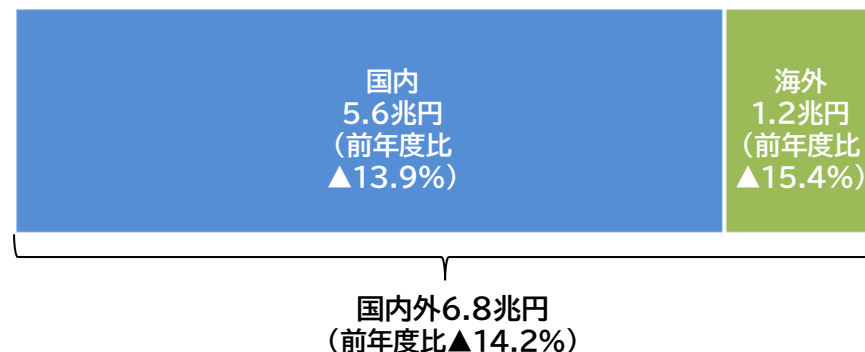


企業・官公庁のリース利用率



*リース事業協会「リース需要動向調査(2020年)」、「官公庁におけるリース利用実態調査(2019年度)」

連結リース統計(2020年度)



*リース設備投資額ベース(リース会社におけるリース物件の購入価額)

2. リース業の「低炭素社会実行計画」の概要

- ◆ 本社床面積当たりの電力消費量の削減を目標としています(2018年11月改定)。

基準年度 2013年度 105.4kwh/m²

目標年度 2020年度 100.1kwh/m² (基準年度対比 ▲5%)

2030年度 100.1kwh/m² (基準年度対比 ▲5%)

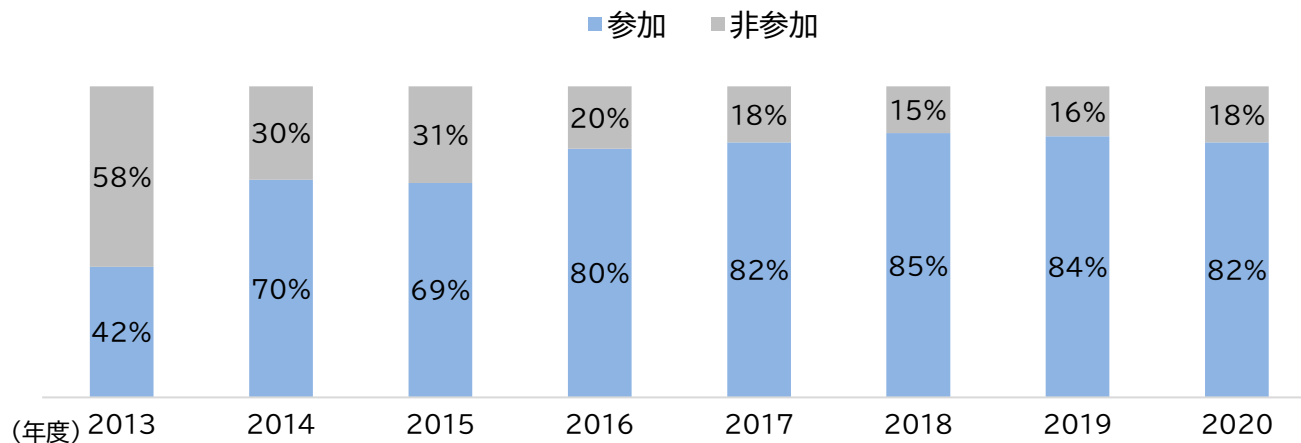
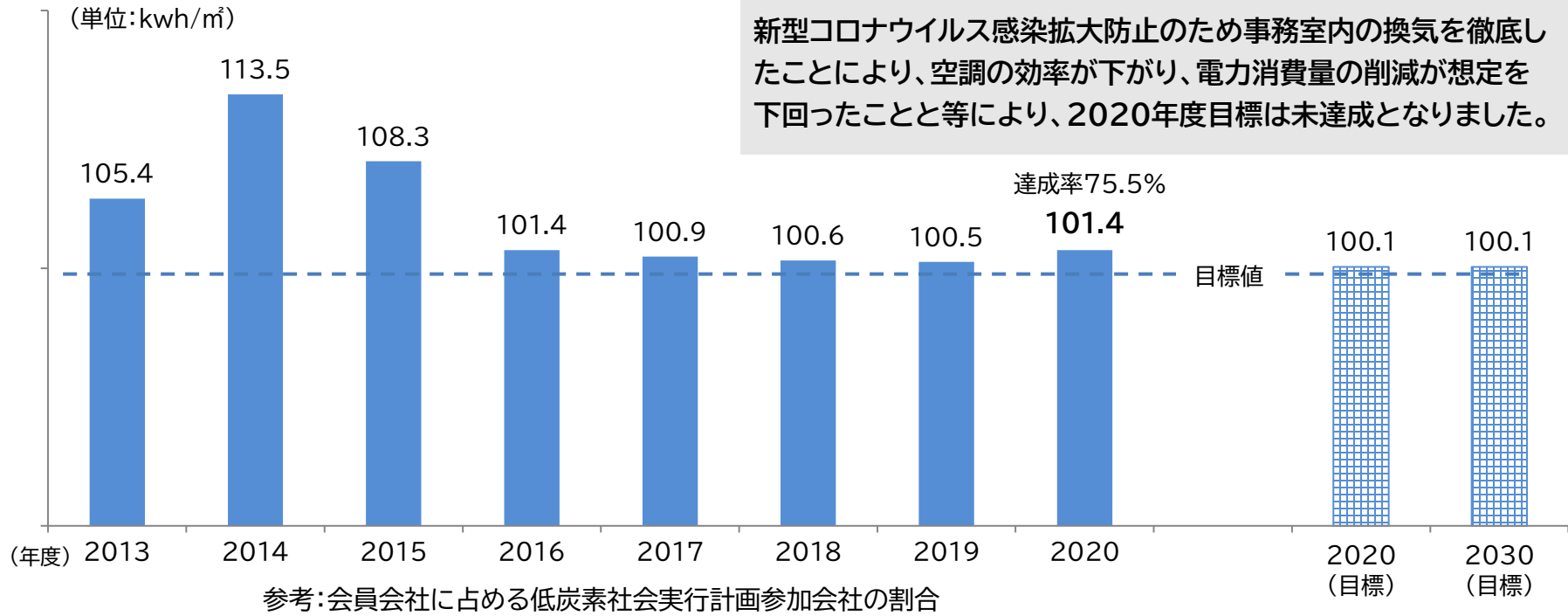
目標策定の背景

- ◆ リース業のエネルギー消費は、オフィスの電力消費がほぼ100%であり、本社における電力消費量を削減することが、温室効果ガスの排出量削減にもっとも効果的であると考えられます。また、過去との対比をするために「本社床面積当たりの電力消費量」を原単位としています。
- ◆ 基準年度から2020年度まで、会員会社が最大限の努力で毎年度0.7%ずつエネルギー消費量を削減することを想定した上で、本社移転等の流動的要素、参加会社数の増加等を勘案し、基準年度対比で5%削減する目標としています。
- ◆ 2030年度目標は、暫定的な目標であり、2020年度の実績を検証した上で目標値に関する検討を行うこととしています。

前提条件等

- ◆ ほとんどの会員会社が本社オフィスを賃借しています。ソフト面(冷暖房温度の設定等)の取組が中心となり、設備面の取組は少なくなっています。このため、上記目標は、参加会員が最大限努力することにより達成できる目標と考えています。

3. 2020年度の実績



2030年度目標の見直しは、2022年度に検討します。

4. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献(例)

	低炭素製品・サービス等	取組内容
1	低炭素設備のリース取引(国内:48社、海外1社)	2020年度のリース取扱高 国内:1,696億円(国内)海外:64億円
2	再生可能エネルギー設備のリース取引(23社)	2020年度に新規リース契約をした設備数 585設備
3	エコリース促進事業等の補助事業を活用したリース取引の推進(43社)	2019年度のエコリース促進事業によるCO ₂ 削減実績 3.3万t-CO ₂ /年
4	国際的指標等の導入 ①気候変動に関する情報開示 4社導入 ②SBT(Science Based Targets)の設定 1社導入 ③再エネ100%目標(RE100)への参加 3社導入(昨年度比+2社) ④電気自動車移行目標(EV100)への参加 1社導入(昨年度比+1社) ⑤グリーン・バリューチェーンプラットフォーム... 2社導入(昨年度比+1社)	—

参考:他の企業と連携した取組例

- ・ 住設機器メーカー宛て、屋根置太陽光/PPAを提案、自家消費以外の電力についてもカーボンフリー電力への切替、事業所のRE100化に取り組んでいる。
- ・ 2013年からサプライヤーとの合併で再生可能エネルギー発電事業を開始。東日本大震を受けた「帰還困難区域」での太陽光発電所建設、海外プロジェクトへの出資なども行っている。
- ・ 提携会社と太陽光発電の自家消費支援サービスの推進に取り組んでいる。グループ会社等を通じて、IT機器のリファーマビリティ事業(中古製品を回収し、現在の環境基準に適合するように手入れして、リサイクルする事業)を展開している。
- ・ リース・レンタル満了品のうち、再販可能なICT製品をリユースしている。グループ会社を通じてデータ消去・清掃を施し、国内外に再販している。再販が難しい製品は、グループ会社の3Rシステムにより部品リユースしている。部品リユース後の製品は、鉄や銅、アルミなどの材料に分けられ、最終的には98%がリユース・リサイクルされている。